

海部地域の農業情報(令和6年10月)

掲載日:2024年11月6日更新

海部地域の特産物でドローンの活用を検討中

と き 令和6年8月・9月

ところ 愛西市

海部地域では、先駆的にドローンの活用が進む水田作のほかに、地域の特産物である花ハス、レンコンでもドローンの活用が進められている。農業改良普及課では、実用化や更なる活用に向けて支援している。

花ハスでは、有利販売につなげるため、県内の大学と協力してドローン撮影画像を用いた画像分析による出荷量予測に取り組んでいる。

8月2日に撮影を行い、出荷ピークとなる8月上旬の1週間の収量を予測し、実際の出荷量と比較した。その結果、誤差は1割以内に収まり実用的な精度であると考えられた。今後も農業改良普及課は実用化に向けた課題解決等に取り組んでいく。



花ハスほ場での操縦者とドローン



サービス事業体による作業の様子

レンコンでは、今年度の農業支援サービス事業体によるドローン利用の延べ面積が防除 32.8ha、葉面散布 11.9ha、粒状肥料の散布試行は 5.9ha となった。農業改良普及課は、平成 30 年度の試験時からJAやサービス事業体と連携を深め、継続した対応を行ってきた。現在、農業改良普及課では、粒状肥料散布によるドローン利用や、ドローンによる防除・葉面散布の効果確認、農家への効果の説明を行っている。この取組は、農家も比較的安価に導入で

きる上、作業軽量化や栽培改善にも役立っており、今後も利用が進むと思われる。